

いしかわ

No.35

2010.3.23

の遺跡

堀に囲まれた

中世武士の館発掘



宮保館跡の空中写真

北陸新幹線の建設に伴う^{みやぼかんせき}白山市宮保館跡の発掘調査で、幅約5mの堀が一辺約40mの規模でコの字状に巡ることがわかりました。内部からは掘立柱建物や竪穴状遺構、井戸、墓と考えられる土坑も見つかり、12～15世紀頃の遺物が出土しています。

線路山側に接する宮保B遺跡でも、幅約3～4mの堀状の溝や宮保館跡と同時期の遺構・遺物が見つかっています。

両遺跡は一体となり、二重の堀に囲まれた中世武士の館になる可能性があります。



堀の発掘作業風景

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

宮保館跡・宮保B遺跡（白山市）

遺跡は、白山市北西部の宮保町地内にあります。松任駅から小松方面に約3km向かった標高15m前後の水田地帯に所在しており、JR北陸本線を挟んで海側の宮保館跡と山側の宮保B遺跡に分かれています。

宮保館跡では、幅約5m、深さ約1mの堀が一辺約40mのコの字状に巡り、内側には掘立柱建物や竪穴状遺構、周辺では別の堀状の溝や井戸、墓と考えられる土坑などが確認されました。

堀からは、15世紀前半頃の土師器皿や陶磁器、石製品、金属製品、漆器椀、木製品などと共に、薄い板に墨で法華経を書き写した柿経が、南東隅部分から出土しています。柿経は平安時代末頃から江戸時代にかけて、薄く細長い板に経典を書写し、一束にまとめて寺院に奉納したり、川に流すなどして、故人の供養や死後の安楽を願い行われたものです。この柿経は小さな破片での出土ですが、県内の遺跡からの出土例は少なく貴重な発見です。

中世墓と考えられる長さ約1.9m、幅約1.1m、深さ約0.3mの長方形の土坑からは、副葬品として置かれた土師器皿や漆器椀、刀子と共に烏帽子が出土しています。烏帽子は平安時代から江戸時代初めにかけて成人男性が日常被っていた漆塗の帽子で、身分や位により形や材質が異なると言われています。この烏帽子は布を折り、漆で固めた折烏帽子と考えられ、中世の武士などが被っていたものと思われる。全国的にも全形が確認できる状態での出土例は少なく、貴重な出土品となりました。

宮保B遺跡では、幅3～4mの堀状の溝や、掘立柱建物、竪穴状遺構、大型の土坑が見つっています。竪穴状遺構は、一部が重複したり、近接した場所に何度も掘り直されているものが多く、掘り直し時に壁の弱いところに石列を組み、壁の補強をしていたようです。掘立柱建物の内部に見つかることもあり、半地下式の貯蔵庫や作業場となる可能性もあります。



中世墓の副葬品出土状況



堀内側の完掘状況



烏帽子



敬圍繞而爲



尼佛白毫

柿経と経文

高見遺跡（白山市）

遺跡は、白山市北西部の北安田町地内、手取川扇状地扇央部の水田地帯に所在します。調査区はJR北陸本線の山側に接しており、松任駅から小松方面に約1.5km向かった水田地帯に位置します。発掘調査は、北陸新幹線の建設工事によるもので、周辺では法仏遺跡や北安田北遺跡をはじめ、弥生時代から中世にかけての集落遺跡が多数確認されています。

発掘調査では、洪水などによる土砂の堆積作用により、部分的に複数の遺構面を形成していることを確認しました。

弥生時代後期から古墳時代前期では、大型の竪穴建物を確認しました。

奈良・平安時代の遺構としては、方形の竪穴建物、掘立柱建物、溝などを確認しています。カマド跡やカマドの煙道が良好に検出できた竪穴建物もありました。

鎌倉・室町時代の遺構では、一辺が1～2m、深さ0.1～1m程度の方形・長方形の竪穴状遺構群（貯蔵穴または作業場か）や、これらを区画するように分布する溝などを確認しました。これらの遺構からは、15世紀後半から16世紀代とみられる越前焼や青磁などの陶磁器のほか、石塔や茶臼などの石製品も出土しています。



上空から見た高見遺跡（南西から）



竪穴建物（弥生時代）



竪穴建物（奈良時代）カマド跡周辺の土器



竪穴状遺構（鎌倉・室町時代）発掘作業



平成21年度 講座 考古学最前線 「古代国家と道路」

最新の研究テーマをわかりやすく解説する講座 考古学最前線は、平成21年11月15日に「古代国家と道路」と題して文化庁文化財調査官の近江俊秀先生にご講演いただきました。

近江先生は、道路を文明の証となる遺構と捉え、弥生時代に外交の窓口となった遺跡から道路の整備が開始された歴史を解説しつつ、古代には都と地方を結ぶ全国的な道づくりが行われた様子などについて平易な口調で話されました。会場の県立美術館ホールに集合された134人の方々は、興味深い講話に聞き入り、古代国家が設置した「七道駅路」と呼ばれる全国的な道路網の成り立ちについて、現代の道路行政にも通じた特徴が説明されると、うなずき、微笑みながら理解を示されていました。



平成21年度 発掘報告会 「いしかわを掘る」

発掘調査を担当した調査員が、成果を報告する「いしかわを掘る」は、本年3月7日(日)に県立生涯学習センターを会場として開催され、6件の調査報告が行われました。

報告は、弥生時代以降の集落が複合した白山市高見遺跡と金沢市直江遺跡群、奈良・平安時代では、小松市二ツ梨岡向山古窯群の窯跡と野々市町郷クボタ遺跡の大型建物があり、中・近世では、白山市の宮保館跡・宮保B遺跡や金沢城跡の玉泉院丸ぎよくせんいんまるなど、多彩な報告内容となった。なかでも宮保館跡や金沢城跡の報告では、堀跡の発掘作業や庭園の景石の写真が、スクリーンに写されると参加された160名の方の中には、映像に見入る姿があり関心の高さが示されました。



古代体験

古代体験ひろば-体験工房-期間限定メニュー-

秋・冬限定

体験 古代の文房具（陶硯・木簡づくり）

いしかわ教育ウィーク（11/1～7）期間限定

木の板を削って木簡を作り、墨と筆で文字を書いたり、粘土で硯を作りました。

陶硯-須恵器などの焼き物で作られた硯。

木簡-古代に、紙の代用品として使用した木の板。



木簡 年賀状づくり 12月限定

古代の文房具である陶硯を使い、はがきサイズの木の板に文字を書いて、木簡の年賀状を作りました。



古代 はたおい体験 1～2月限定

古代の織り機（たか はた機）を使い、織物を作りました。



古代体験学習講座 ～古代のスイーツ～

「古代のスイーツ」

2月28日に開催した講座では、18名の親子が、奈良・平安時代に、貴族が祝い事などで食べていた餅や菓子（つばきもち）を調理しました。現在にも伝わる「椿餅」や源氏物語に登場する「粉熟（ふすく）」、中国から伝わった「唐菓子（とうがし）」など5つの菓子づくりに挑戦しました。





古代の扉をひらくキーワード
いしかわの遺跡 検索

「歴史と出会える場所」

平成
22年度

体験イベント

1. 手形・足形づくり (4/29~5/9)
2. 古代体験学習講座
 - ①弥生の玉づくり (5/23) ④縄文狩人体験 (12/5)
 - ②縄文土器づくり (9/12) ⑤遊びの歴史探検 (1/30)
 - ③須恵器づくり (10/24)
3. 親子の発掘体験教室 (6/19・7/24)
4. 夏休み「はにわ」づくり (7/17~8/9)
5. まいぶん・バックヤード・ツアー (8/16~31の平日)
6. いろ・色・まが玉づくり (9/18~26)
7. 古代体験まつり (10/2・3)
8. 体験 古代の文房具 (11/1~7)
9. 冬季限定メニュー
 - ①木簡年賀状づくり (11/27~12/12)
 - ②人形&鬼面づくり (1/8~23)
 - ③古代 はたおり体験 (2/5~27)

展示案内

- ・ いしかわの発掘展 (7/16~8/31)
「遊戯具の誕生」
- ・ 加賀郡勝示礼公開 (9/17~10/4)

講座案内

- ・ まいぶん考古学講座
~加茂遺跡と北加賀の古代~
全3回 (5/30・6/6・6/13)
- ・ 移動講座「まいぶん出り張り」
かがを掘る: 能美市立辰岡図書館 (6/27)
のとを掘る: 輪島市文化会館 (7/11)
- ・ 講座 考古学最前線 (11/20)
於: 石川県立美術館ホール
- ・ 発掘報告会「いしかわを掘る」(3/13)
於: 石川県立美術館ホール



収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。今回のテーマは「布とワザ」です。

収蔵品No.22

あみ ぬの 編 布 (アングイン様編布) — 金沢市米泉遺跡 — よないずみ

金沢市米泉町に位置する米泉遺跡からは、2点の編布が出土しています。時代は縄文時代後期(約4,000~3,000年前)で、布は巻かれた状態のものです。2点とも漆を濾す時に使われ、布の繊維に漆が浸み込んだことで、当時の形がそのまま保たれました。

この様な縄文時代の布が出土した遺跡は、全国で13遺跡と極めて少なく、貴重な出土品です。また、そのほとんどが振り編み法(緯糸を2本の経糸で交互に絡めるようにして編む方法で、同様な方法はすだれを製作するとき用いられています)で編まれた布です。

編布の長さは、1が約5.5cm、2が約9cmを測り、直径は、両方とも2cm弱です。両方とも繊維の特徴から、糸はアカソという植物を素材とすることがわかりました。糸の太さは、1が緯糸幅0.8~1mm、経糸幅1.3~1.7mm、2がそれぞれ0.6~0.9mm、0.8~1.3mmで、1の緯糸が片撚りの糸(一束の繊維を撚ってつくられた糸)を用いている以外は、諸撚りの糸(片撚りの糸をさらに撚り合わせた糸)が用いられています。編み密度(1cm間の糸数)は、1の経糸が4~2.8本、緯糸が8.4~6.8本、2のそれぞれが4~3本、12~10本と細かく、その製作方法や道具は、まだよくわかっていません。

漆濾しに使用された編布は、米泉遺跡を含め全国で6遺跡から発見され、どの遺跡からもすばらしい漆製品が出土しています。これらの編布は、縄文時代の布の実物資料として貴重なだけでなく、縄文時代に始まる日本の漆工芸を支えた技術を示すものとしても重要です。

近年、北海道恵庭市の柏木川4遺跡で数種類の模様を持つ編布が見つかりました。いくつかの断片となっていますが、もとは1点の編布だった可能性があり、縄文時代の衣装であったとも考えられています。米泉遺跡の編布を含め縄文人の布づくり技術がどのようなもので、どんな衣装を着ていたのか、さらなる解明が待たれるところです。



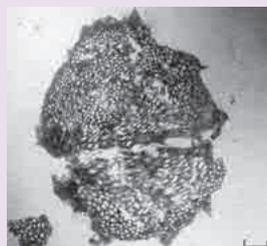
編布 (アングイン様編布) 1



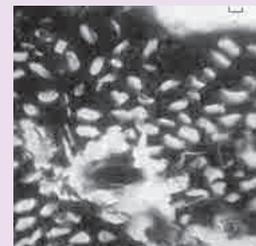
編布 (アングイン様編布) 2



1の部分拡大
(緯糸と経糸の関係がわかる)



1の経糸の断面顕微鏡写真
(2本の糸を合わせていることがわかる)



糸の拡大顕微鏡写真
(白い部分がアカソの繊維)

訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

県指定史跡 てら い やま 寺井山遺跡〔能美市〕

手取川の南岸に広がる能美平野には、和田山、末寺山などの独立丘陵が点在しており、国指定史跡の和田山・末寺山古墳群、秋常山古墳群が展開しています。寺井山遺跡は、能美市寺井町寺井に所在する弥生時代の遺跡で、昭和45(1970)年7月と10月の発掘調査で、その重要性が確認されたことから、県指定史跡となり、史跡公園として保存されました。

遺跡の南側に延びていた丘陵は、昭和40年代前半の宅地造成等により消滅しましたが、北端に位置した2基の遺構については、発掘調査でその概要が明らかにされました。

円墳状の5号丘(直径約20m・高さ約1.7m)は、埋葬施設が未確認ながらも周溝(幅約4m・深さ0.4~1.2m)を検出し、墳墓に関連した祭祀儀礼の特殊な遺構と推定されました。6号丘では丘陵端を溝(長さ約14m・幅約3m・深さ0.8m)で区画した中に、鉄鏃・鉄剣・鉄刀を副葬した2基の土坑墓を検出しました。

両遺構とも弥生時代終末の墓制にかかわる遺構であり、その後の古墳群へと移行した当地の墓制を知る上で重要な遺構であることが判明しています。その結果、寺井町や地元住民らの協力により保存が図られ、現在は住宅地内の史跡公園として、一般に親しまれています。



寺井山遺跡全景



寺井山5号丘

所在地：能美市寺井町寺井
交通：JR寺井駅から車で10分
お問い合わせ：能美市歴史民俗資料館
電話 0761-58-6103